

「生業の聞き書きから考える島のサステナビリティ」

担当教員名 西城戸 誠

コース概要

日程 2018年12月25日～27日
(本来は2018年8月6日～10日の実施であったが、台風のため延期、日程短縮となった)

場所 東京都八丈町

参加人数 6名

コースのねらい

八丈島の生業に関する聞き取り調査、聞き書きの作業を通じて、島に住むことの意味、八丈島のサステナビリティを展望する。

内容

このフィールドスタディは、現地訪問や視察を中心としたフィールドスタディではなく、聞き取り調査とその後の聞き書き作成を行う意味でフィールドワークに近い内容となっています。事前学習の段階で調査テーマに関する資料を集め、質問項目の準備を行います。なお、フィールドスタディ中に、参加者は聞き取り調査の文字おこしや聞き書きに向けた作業（アウトラインの作成）を行っています。

1日目(12/25)

早朝に羽田空港から八丈島空港に移動し、プログラム全体のオリエンテーションを終えた後、八丈島役場への訪問を行いました。参加学生の一人が、八丈島の昆虫の外来種に関心があったこともあり、八丈島の環境対策の担当者から、関係する話を伺いました。

午後は八丈島乳業(<https://www.hachijo-milk.co.jp/>)の魚谷さんに、八丈島の酪農の歴史、魚谷さんご自身の八丈島への関わりと「動物福祉」の観点から行う現在の酪農業、今後の展望と島の将来などについてお話を伺いました。



八丈島乳業のジャージー牛



農場は海のすぐ近く



聞き取り調査の様子

2日目(12/26)

午前中は、八丈島えこ・あぐりーまーにて、菊池義朗さんから生い立ちや戦争中の八丈島の農業、戦後の花卉栽培、八丈島の園芸農業の今後などについてお話を伺いました。山への散策(1時間)の中でシダ植物や、八丈の植生についての話も聞きました。

午後は、長田商店(<http://kusayaya.com/>)の長田隆弘さんから、くさやの作成工程(くさや液とくさやに使う魚の関係)、八丈島の漁業やくさや産業の今後についてお話を伺いました。ご自身のライフヒストリーも交えた、2時間を超える熱のこもったお話を伺いました。

夜は、地元の若者のイベントを手がけ、地熱発電や小水力発電事業に関心を持つ峯元竜二さんから、八丈島の地熱発電と地域社会の関係についてのお話を伺いました。



八丈の植生について伺う



くさや生産と漁業についてのお話



くさや液について伺う

3日目（12/27）

午前中は、大竜ファームの大沢竜二さんを訪問しました。大沢さんは趣味であるクワガタのブリーディングから八丈島での椎茸栽培を思いついたそうです。現在の八丈島の椎茸栽培の状況と、今後の可能性（体験型農園の構想など）についてお話を伺いました。

午後は、3日間で4名の方の聞き取り調査をまとめて、それぞれが聞き書きのアウトラインを作成し、全員で検討しました。最終的には担当ごとにそれぞれ各自で聞き書きを完成させます。

当初より短い3日間の滞在でしたが、お話を伺った以外にも、八丈島の方との交流にあふれるフィールドスタディができました。



クワガタの対決



椎茸栽培体験と聞き取り調査

学習を終えて

3日間のフィールドスタディを通して、島で生業を営む4の方に聞き書き調査という形で話をうかがい、島のサステナビリティについて考えました。その中で、生で行う調査の難しさや、島の産業と暮らしの複雑な結びつきを学ぶことができました。聞き書きを行った4人は全員が異なるバックボーンを持ち、自身の生業が抱える事情や課題も人それぞれでしたが、島をよくしていこうとする思いが共通にあることが印象的でした。

また島民のあたたかさや密接なネットワークにも触れ、想定していたより多くの貴重な話や体験をさせていただき、より八丈島の魅力を深く感じることができました。夏に計画されていた当初の予定より短い日程でしたが、その分凝縮された濃いフィールドスタディとなりました。（3年・野村惇貴）

このフィールドスタディでは島の産業である酪農、園芸、くさや、しいたけ栽培の4人の方たちのお話をうかがい、聞き書きを行いました。実際に会って話すことは難しさがあるものの、事前学習ではわからなかった部分もより深くまで知ることができました。急遽お話をしていただいた方も含め八丈島の方は人柄がよく、熱心に島の現状や、島のこれからの未来を話してくれて、とても考えさせられました。1人1人が八丈島のことを考え、原動力や実現力を持っていて、八丈島を愛してるからこそできることだと思いました。八丈島での人との出会いは素晴らしく、島ならではの温かみを感じ、濃い三日間を過ごせました。（3年・中島千裕）